

立川

立川市立第一小学校
創立140周年記念特別号

The
140th
anniversary of
establishment

立川と語ろう 立川に生きよう
écoutez bien Extra Issue No.2

表紙の人 第一小学校 PTAOB会
歴代会長のみなさん





第一小学校の歴史

新潟県の小千谷小学校に次いで全国で二番目に古く、東京では一番古い小学校。移りゆく時代の中で、多くの子どもを育み、柴崎の街とともに歩んできた。時代を象徴する学舎に、その歴史を語ってもらおう。

明治

明治2年、政府は「小学校ヲ設ケル事」という条文を示した。柴崎村では板谷元右衛門ら地元有志により、普濟寺境内にある心源庵を借りて『郷学校』が設立された。時は明治3年3月3日、これが第一小学校の始まりである。明治4年政府は文部省を設置、翌5年には太政官布告により全ての人々が学校へ就学することを述べている。『郷学校』は『綱領学舎』、『柴崎学校』と名前を変え、児童数が増えた明治11年には、現在の柴西公園に。その後『立川小学校』、『尋常小学校』と校名を変え発展していった。

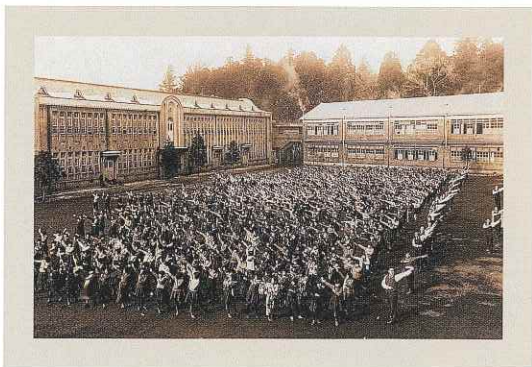
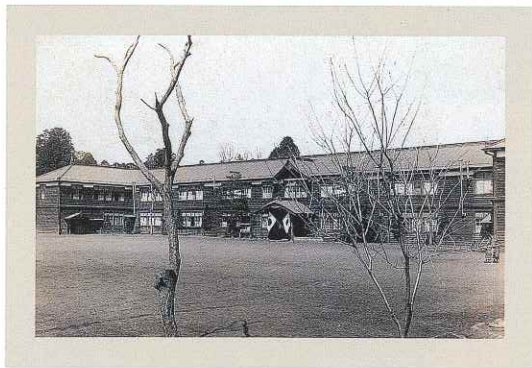
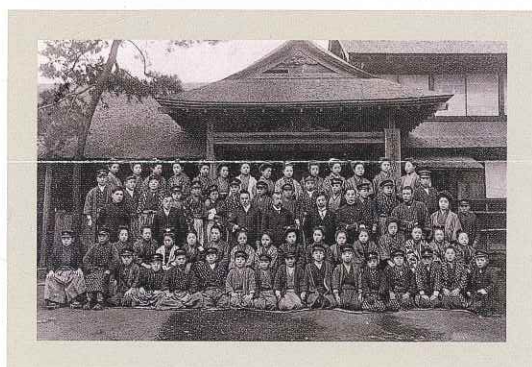
大正

立川尋常高等小学校が現在の場所に移ったのは大正3年。木造二階建てに新築され、「三多摩一の立派な校舎」と評判だった。立川村の人々の寄付によって建てられた校舎は、村人の教育に対する熱意の結晶とも言える。鐘の合図で朝礼が始まり、校庭にきちんと並んだ児童は校長先生の話をもまず聞き、次に「金剛石のうた」を歌ったという。——「金剛石も磨かずば 玉の光はそはざらむ 人も学びて後にこそ 誠の徳はあらわるれ」——やがて大正12年におこった関東大震災の教訓により、大正14年には、モダンな外観のコンクリート校舎が落成した。

昭和から平成

昭和20年、戦争が終わると立川には米軍の基地が置かれ、頭上を飛び交う飛行機の騒音が校舎のガラス窓を振るわせるようになる。この騒音から子ども達を守ろうと、PTAや町の人々が団結。やがて国と立川市の協力を得て、昭和35年、現在の防音校舎が完成。それに先立つ昭和27年には、校名も現在の『立川市立第一小学校』と改称された。平成に入り、校庭のスプリンクラー、プールの改築、郷土学習室、第二図書室、ランチルームの設置、窓がアルミサッシに変えられ、平成4年には放送室が作られてテレビ放送が、平成11年にはインターネット導入、パソコン学習が始まった。平成23年、第一小学校は未来に向かってさらに飛躍する。

(参考資料：創立140周年記念誌 しばさき/多摩のあゆみ 第38号)



140周年から未来へ—— 操木豊校長にきく

操木 豊校長が、
第30代校長として立川市立第一小学校に着任したのは
創立140周年に当たる平成21年4月。
今春新たな1年生を迎え、子供達に託す思いと
未来への展望をあらためて語っていただいた。

聞き手：石川重治 PTA 会長

操木 豊 (くりき ゆたか)

八王子市立小学校、立川市立幸小学校、立川市立第四小学校で校長を歴任した後、平成21年4月から立川市立第一小学校校長に就任。『一人一人が輝き、共に生きる力を培う教育』を基盤に日々子供達と接している。先の卒業式で校長として12回目の卒業証書を授与した。プライベートタイムには立川市吹奏楽団でホルンを演奏し、アマチュア無線でおしゃべりを楽しみ、愛犬“ルナ”との散歩を日課にするナイスミドル。NHKの教育番組に関わる東京都小学校放送教育研究会会長、全国放送教育研究会連合 副理事長でもある。



PTAOB会から140周年を記念して
新しい校旗が寄贈された



石川 校長先生、140周年本当にいろいろありがとうございます。

操木校長 会長もお疲れさまでした(笑)。

石川 先生は、いろいろな小学校で校長を歴任されてからこの柴崎へ来られたわけですが、街の方々の意識と違いますか街の特色が随分違うと思います。そんな中で140周年を迎えられていかがでしたか?

操木校長 学校や地域によって特色はあります。八王子の学校と幸小の場合は新しく移り住んで来られた方が多い地域でした。四小は一小から分かれた学校ですから、元々は一小に通っていた人たちがいますし、あちらも70年の歴史で、似たような感覚はありますね。富士見町と柴崎町は繋がりががありますので、良い意味でのライバル意識もあり、柴崎には負けるな、富士見に負けるな、良い意味で負けるなという。同じ中学校へ行くっていうこともあって、すごく仲が良いんです。私自

身もよくお邪魔していましたし、そういう意味で柴崎は全く初めての地域の学校ですが違和感はありませんでした。むしろスツと入れたと自分ではそう思っています。周りはどう思っているかわかりませんが(笑)。

140周年を終えて

「チェンジは新しい事をする
チャンスであり、チャレンジ」

石川 私も140周年の実行委員長を務めながら、本来ならば現役PTA会長ではなく地元の方が務めるべきお役なのではないかと。経験のないところを地元の方に支えられ、先生にご協力いただいて無事行事を終えられたのが嬉しかったと思います。校長先生はいかがでしたか?

操木校長 一小に来てまだ1年ですからね。校長の仕事は何年かやっています

のでわかるのですが。新しい学校に来たという事、創立140周年があったということ、総合合同防災訓練があったということ、校舎の建て替えがあったということ、それから私的には校長会の会長という仕事があったということなど、いっぺんにいろいろなことが起こった。けれども1年間振り返ってみると、チェンジということは新しい事にチャレンジするチャンスだなど。チェンジすることは、私にとってはすごく良かったと思えました。たくさんの方にチャレンジさせて貰いましたし、これは私に与えて頂いた1年間だったという事で、すごく光栄に思っています。正直大変でした。(笑)

校長先生の学校経営

石川 校長室のドアのガラスですが、以前は曇りガラスだったのを校長先生のアイデア

で透明になさいました。そのせいかとてもオープンな印象を受けます。私自身が小学生の頃は、学校の先生や校長先生との距離がすごく遠かった。でもここでは、先生との距離が非常に近く感じます。先日も校長先生が子どもたちとタッチしているのを見かけて、「あれっ、校長先生って近いんだな〜」って。先生方の意識や、子どもに対する接し方が昔とは変わってきているのでしょうか?

操木校長 そうですね。東京都には小学校の校長が1350人程いて、学校もそれだけ数がありますが、時代の流れと共に少しずつ雰囲気も変わってきています。威厳のある方も大勢いらっしゃいますが、やはり子どもの前に出るとみんな笑顔になりますね。私もそうですが、どんなに忙しい中でも、子どもの笑顔に接する事がエネルギーになっていま

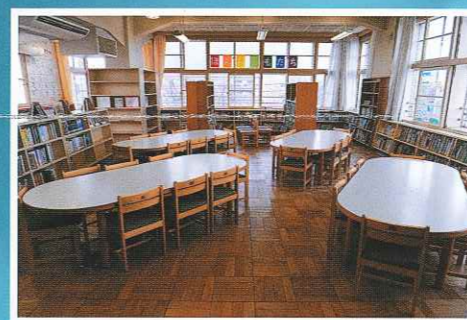
すし、地域の方やPTAの方々のお力をお借りすることが生きる力になっています。

また、子どもは叱るよりも褒めて、そして喜んでもらう顔を見た方がいいですね。たとえば、朝会の時に話をします。朝礼台というのはすごいと思うのですが、あの上に立つと414名の子どもの、1人1人の顔がわかるんです。そこで「ああ、みんなよく聞いてるね」というと、聞いていない子が聞くようになる(笑)。もちろん特定の子に「今、大事な話をしているんだから聞いてちょうだいよ」といって、その子が聞いてくれるのも一つの教育的な効果かもしれませんが。けれども、「ありがとう」といって本当に聞いてくれますし、それがみんなにも伝わります。やっぱり子どものよい所を見つけて、それを伝えられればいいですね。それには、あまり

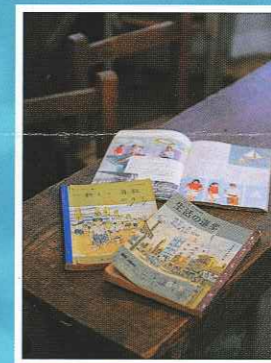
距離が遠いとだめなんです。

石川 私も学校評議員をさせていただいて、初めて年間通して学ぶ姿を見せていただきました。今まで気がつかなかったんですけど、学校にはエアコンがないんですね。暑い時寒い時、ずっと子どもたちを集中させて勉強させる。ご苦労されることがあるんじゃないでしょうか。

操木校長 会長さんより少し上の方がよくおっしゃる言葉に、昔は児童が千人以上いたんだよとか、昔は1つの教室に大勢いたんだよとか。確かにそうです。でもそこに入っている子どもが違います。子どもはまだ7月是我慢ができる。徐々に暑いのに慣れていって。でも夏休みはエアコンの効いた家庭に帰りますでしょ? 9月の暑さっていうのは非常に辛いんです。そこへ運動会の練習



図書室



郷土学習室の展示



郷土学習室には歴代の卒業生の写真が展示してある

とかが入ってきますからね。うまく集中させるにはあの手この手を使います。

石川 いや〜、ご苦労されているだろうなと思っていました。エアコンだけでなく校舎もレトロな感じがしますよね。

操木校長 そうですね。第一小学校の校舎

が古いということですね。第一小学校は建て替えます。建て替えるっていう時には大抵、「どうせ建て替えるんだからきれいに直してもしょうがない」とか、「どうせ壊しちゃうんだから、このままで我慢しよう」という発想になりがちです。でも、それはおかしい

と思うんです。先ほどの校長室のガラスの話もそうですが、ドアが閉まっていると向こうから見えないという事もあります。こちらから見えない不安もあるんですよ。廊下ですごい音がするので「何事か?」と思って覗くと、先生達が時間に追われ

て走っているだけだったりして、「あ、すみません」なんてね(笑)。やはりこちら側を見たいし、私も向こう側を見たいという思いがあって透明なガラス窓にしました。図書室もそうです。図書室の机も全部入れ替えて、しまってあったきれいな机を出して。要するに今ある財産の中で工夫すれば、図書室だって快適に活用できる。今できることで改善できるのなら、どんどんやらせてもらいたい。

石川 本当に。ガラス1枚でしょうけれど、その1枚でそう思いましたね。もうすぐ建て替えられる期限つきの校舎であっても、もつたないから、今ここが大事だからという事で、校長先生が色々と変えてくださっていることがよくわかります。

操木校長 一番先に変えたのは体育館へ行く渡り廊下のスノコです。体育館へ行く時、校舎から上履きで歩いて行けるように



第一小学校校長室にて

140周年から未来へ— 操木豊校長にきく

スノコが敷いてありました。ですが車椅子の子が入学すると知り、車椅子のタイヤがスノコの隙間に入ってしまうのではないかとすぐに外してもらいました。そうすると外で遊んでいる子と上下の境目がなくなるのでは?という話もあったんですが、それは教育すればいいことで、やっぱりその子どもの事を考えるとスノコは邪魔だろうなと思ひまして実行しました。工夫してできる事はやりたいですし、それが見つければ、自分でも子どもたちの役に立ててよかったなあと思います。だからいつもキョロキョロしています(笑)。

街とのかかわり

石川 子どもたちとの距離もそうですが、地域の皆さんとのコミュニケーションをとる

大事にされていますね。

操木校長 そうですね。たとえばコミュニティールーム。元々殺風景な部屋でしたが、「柴崎ギャラリー」として子どもたちの作品を飾らせてもらいました。これも、せっかく地域の方が学校にいらっしゃるのなら、作品を見てもらおうということで始めました。

石川 職員室の前の掲示ボードにも、色々なものがタイムリーに貼られていますね。

操木校長 はい。1学期のものがずっと貼られているのではなくて、終わったら新しいものへと更新していく。そういう情報コーナーとして活用しています。

石川 防災訓練とか夏まつりの情報も、ここに貼っていただきましたね。地域の情報もここにちゃんと掲示しておけば、出入りする地元の方にも見てもらえますね。『柴崎町

は教室……柴崎町は先生……』あれを見ると、地域の力を学校はわかってきていると、皆さん安心しますよ。

操木校長 柴崎の地域というのは、まさにこの通り柴崎町は教室ですし、柴崎町は先生なんです。地域の応援というのは、本当にすごいですね。

石川 『世界への入り口……』ともありますが、子どもたちにとって街や学校はまさしくそうだなと感じます。

操木校長 先日の卒業式でも子どもたちが世界に羽ばたくという意味の、将来の夢や決意を語っていました。世界中に行って自分の力を発揮したいとか、オリンピックに出たいとかですね。また外国の言葉をたくさん学んで通訳の仕事をしたとか、旅行会社に入ってみんなを案内したいとか。

平成二十二年年度の入学式



22年度の経営方針ですが、看板の一つが立川一中校区小・中連携教育です。三校で今までやった研究が2年で終わるのではなくて、引き続き三校の財産として続けていこうと、この看板を残すことにしました。

石川 本当にそうですね。子どもたちがいろいろなことを一生懸命に学んで、小学校を卒業し中学校を卒業していったら、地域の活力は上がると思います。そういう意味では非常に大事な教育の考え方だと思います。そういえば、先日給食をいただく機会があって、とてもおいしかったのですが、地元との連携もあるのでしょうか?

操木校長 そうですね。できるだけ地元の食材を使おうということで取り組んでいます。栄養士さん達と情報交換しながら、まずは地元の食材や業者さんを当たってみる



地元の情報を掲示してある

第一小学校と柴崎町の人々との大切なかわり
柴崎町は教室
柴崎町は教材
柴崎町は先生
柴崎町は家族
柴崎町は世界への入り口そして未来への出発点



石川 すばらしかったですね。

操木校長 きっと未来へ繋がっていくと思います。今の子供はすごく幸せだなと思うんです。昔はおそらく道がそんなにはなかったと思うんです。決まった道があって、その中で精一杯がんばってきたという人が多かったのではないのでしょうか。将来の選択肢を用意してあげられるってことは大切な事ですし、また大人が子どもたちのためにやってあげられることなんです。そういう意味では子供に野球の素晴らしさも教えつつ、サッカーの楽しさも教えるとか、私も音楽だけでなく違うものも教えることは思っています(笑)。いろいろな事をやってあげられればいいなと思います。

キャリア教育といいましてね、一中と一小と四小で2年間研究してきたんですが、今、大人というか、若者がどう生きたいかとかすごく迷っていますけれど、そうならないよ

うにするには、その一歩手前の10代の後半ではどんな生き方をすればいいのか、取組をしたらいいのか、じゃあその一歩手前の高校生の時はどうなのか、中学生ではじゃあ小学生はどうなのか。キャリア教育とは生き方教育ですので、すぐに大人の世界の中でどう生きたいのかという話になってしまっていますが、そうではなくて1歳には1歳のキャリア教育が、幼児には幼児のキャリア教育があるんです。小学6年生には6年生のキャリア教育ということで研究してきているので、何かすごく私たちが勉強になりましたね。2年間の研究というのは。そういう意味で一中と連携しているということは、すごく良かったです。この私たちの学校の特徴でもあります。で、教育を連携してやりますと……。

石川 PTAも関わりをもって……。
操木校長 PTAも連携します。そこで平成



石川重治 (いしかわ しげはる)
平成18~19年 立川市立第一小学校PTA副会長
平成20~21年 立川市立第一小学校PTA会長
平成21年 立川市立第一小学校評議員
創立140周年記念事業実行委員長
建替検討協議会委員
平成22年 立川市立第一小学校PTA会長

といった段取りでやっています。また、学校評議員さんには準備の段階から見てもらい、子どもと一緒に給食を食べていただく機会をもうけています。子どもと一緒に食べれば、その味も「おいしそうだね」ではなくて「あ、おいしいんだね」ってわかりますし、準備ができたから来てくださいではなくて、準備の段階から入ってもらう。子供の姿を見れば、色々話すよりよくわかっていただけますからね。

第一小学校から未来へ

石川 今の子どもはよくダメダメだと言われますが、よく見るとすごい素質とか才能を持っていて、それを先生方はよく引き出して下さって本当にありがたいなあと思っています。校長先生の一番のモットーといいますが、子どもたちにはこうあって欲しいという

ものはありますか?

操木校長 私がいつも自分の中心に置いているのは、「一人一人が輝き、共に生きる力を育む教育を」という事です。みんな自分の力を持っている。それを発揮する事によって輝くんだと伝えたいし、持てる力をより育てたいという気持ちがあります。ただ、やがて社会に出て生きていくわけですから、自分自分が力を出すのはいいのですが人に迷惑をかけてはいけません。まずは自分の力を発揮して輝いてほしい。と共にやはりみんなで一緒に生きていける大人になってほしい。それにはいきなりはできませんから、小学校1年生は1年生なりの輝きを持ってもらいたいし、6年生は6年生として6年間勉強してきた、教育を受けてきたところの完成形として輝いて欲しいとずっと思っています。これは皆さんもそうなのですよ。大人にも先生達にも、それぞれに合った力を出すことによ

て輝いてほしいと思っています。学校という、授業をする先生達だけが見えてくると思うのですが、そうではありません。事務室に行けば事務室の方がいらっしゃる。おいしい給食を作ってくれる給食室がある。主事室、職員室。卒業式や入学式などの行事も、先生方、職員の皆さん一緒に力を合わせ、チームワークで成功させましょうと必ず言います。チームワークは共に生きる力ですね。一緒にみんなで力を合わせる、そう大人たちにも言ってますし、私だけではなくてみんながそれを子どもたちに言っていくと、未来を心豊かに生きていける子どもたちが育っていくのではないかと考えてやっております。未来社会を、感謝と思いやりの心を持って、たくましく生きていく子どもたちを育ていきたいと思っていますね。

柴崎町 今昔

今は昔のものがたり。
根川の水はとても多く、時にはゴーゴと音をたてて流れていたような。
ボート遊びが楽しくて、春には岸辺の桜に人々が集ったと。
甲武鉄道が敷かれたのは120年前。80年前には南武鉄道とともに南口ができた。
その駅の改札口も今では4つ。多摩川へ向かうメインストリートにはモノレール。
人は切れ目なく行き交い、夜遅くまで賑やかだ。
水量のずっと少なくなった根川には、今年も桜が美しく、カルガモ親子が愛らしい。
いつの時代も緑豊かで美しい柴崎町。
今昔の写真で変遷を振り返る。(資料提供:立川市歴史民俗資料館)



諏訪神社



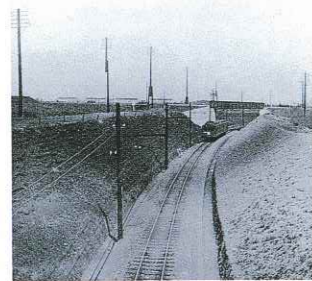
「空都南幸町の発展状況
昭和五年五月五日現在」



都民銀行の看板左に
モノレール柴崎体育館駅が見えている



中央線の電車(昭和5年)
中央線と五日市線が立体交差するところだが、
中央橋はまだない。
柴崎浄水場や真如苑の辺りは桑畑だった。
立川駅に初めて汽車ではなく
電車が入ったのは大正12年で青梅線。
昭和5年12月20日からは立川-浅川(高尾)間にも
電車が走るようになった。
中央橋ができたのは昭和37年。



番場坂下の橋(昭和12年)



普濟寺

立川駅南口駅舎(昭和5年)



立川駅南口駅舎(昭和25年)



南口大通り
南側から駅方向を見る



表紙の人 第一小学校 PTAOB 会 歴代会長のみなさん



森谷 孝さん
第8代 PTA会長
初代 PTAOB 会会長



井上孝四郎さん
第13代 PTA会長
第2代 PTAOB 会会長



磯野俊雄さん
第16代 PTA会長
第3代 PTAOB 会会長



斉藤 武さん
第21代 PTA会長
第5代(現) PTAOB 会会長

えくてびあん 立川市立第一小学校創立140周年記念特別号

平成22年6月9日発行
発行 有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
URL www.tamatebakonet.jp

発行人 黒須 環
編集人 芳賀敏博
企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ
文 佐藤由紀子 他
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
印刷 三浦印刷株式会社

無断転載を禁じます。

The
140th
anniversary of
establishment



校歌

立川市立第一小学校

作詞 原田重久

作曲 清瀬保二

桜咲く丘澄む流れ

誠をつくし身を修め

杜に広場に陽はもえて

明るく強く美しく

光あふるる朝ぼらけ

もゆる若草かおる花

歴史をほこる柴崎の

和みの園に手をとりて

ああ学舎の鐘が鳴る

集う我らのうれしさよ

風も緑をのせてくる

色もさやかな空の下

武蔵立川柴崎の

校章はゆるる学舎に

今日も希望の窓ひらく

